

■ プログラムの内容と生徒たちの声

【第一部】 寺院僧侶による講話～死生観について考える～



歯科医師免許をお持ちのご住職 竹田哲之氏より、仏教の観点からの死生観をお伺いしました。

<生徒の気づき>

- ・「死」は遠いところにあると思っていたが、本当は身近なことと感じた
- ・医療と仏教の共通した考え方を知ることができ、死への恐怖感が薄れた
- ・医療も仏教も目の前の人を安心させるためにあると気づいた

【第二部】 お葬式の模擬体験



①入棺体験・・・ひとりずつ本物の棺桶に入る体験です。蓋が閉まる時、生徒たちは何を感じたのでしょうか。

<生徒の気づき>

- ・最初は怖い気持ちだったが、入ってみるとなぜか「生」を実感できた
- ・棺の中はあたたかく、居心地のいい空間に感じた
- ・亡くなった方の視点から周りを見ることができ、貴重な体験ができた

●入棺体験を担当した葬祭ディレクター・松永

別れや死とは少し遠いであろう Z 世代に、棺はどう映るのか不安でした。しかし、医療・福祉を学ぶ生徒たちから葬祭現場へのリアルな質問が飛び交い、入棺体験後の感想もほとんどが『落ち着く』と述べたことに驚きました。この入棺体験が、もうすぐ迎える社会人生活でも何かの役に立ちますように。



②納棺の儀・・・ファミリーユの納棺師2名による「納棺の儀」の実演です。それぞれの意味や作法などを学び、生徒たちも一緒に旅支度をしました。

<生徒の気づき>

- ・私も最期のお別れは大切な家族に旅支度をしてもらいたいと思った
- ・納棺師さんのすべての動きに、故人様への温かい想いと優しさを感じた
- ・なぜ納棺師になったのかというエピソードを聞いて心に響いた

●納棺の儀を担当した納棺師・加藤

今回、納棺の儀にたくさんの生徒さんが真剣に向き合ってくれた事を、大変嬉しく思いました。これからの将来を豊かにするメッセージになれば、納棺師として意義ある貢献ができたと思います。



③葬儀の流れ・マナー講座・・・ファミリーユの葬祭ディレクターから宗派による葬儀の行い方の違いや、葬儀のマナーについて学びました。

<生徒の気づき>

- ・葬儀はお別れだけでなく送り出してあげるという意味もあると学んだ
- ・以前参列したときは親の見様見真似だったが、葬儀の中で何をしているのか、それにどんな意味があるのか理解ができた

●本プログラムの現場を統括した三河葬祭部長・長谷川徳宏

高校生ですでに将来やりたい事が明確なさくら学園の生徒さんたち。その学ぶ姿勢や目の輝きに多くの刺激を受けました。伝える側の私達が学ばせていただく事も多くありました。



【第三部】自らに照らす

今日一日で感じたこと・考えたことを皆で意見交換し、「令和のエンディングとは」「自分の理想の葬儀」について表してみました。(自分の理想の葬儀については、1ページ目の写真をご覧ください)

<生徒たちの課外授業を終えての学び・感想>

- ・この一日で、「死=怖い」ではなく新たな旅立ちなのだと感じた
- ・葬儀は悲しいだけの場ではなく、楽しく笑顔があってもいいと感じた
- ・死生観について考え、人間は命をいただいて生きているということを意識することができた
- ・将来は医療職に就きたいと考えているので、人の死について学ぶ機会が得られて勉強になった
- ・介護士になったとき、患者さんに「今、この人生が楽しい」と思ってもらえるようなサポートがしたい
- ・看護職では多くの高齢者の方に接すると思うので、皆さんの心の支えになれるように頑張りたい
- ・人間が最後まで持つ感覚が聴覚と知り、最後はきちんと感謝の気持ちを伝えるようにしようと思った

■ 安城生活福祉高等専修学校 医療福祉科主任 鳥居 円佳先生からのコメント



今回体験をさせて頂いた医療福祉専攻3年生の生徒は、将来、医療現場や介護現場で働く生徒ばかりです。学校の授業では、日頃から医療現場や介護現場で実習を積んでいるものの、その先のエンゼルケアは教科書だけでしか学ぶ機会がありませんでした。死生観やエンゼルケアを肌で感じ教えていただくことで、より患者様や利用者様、ご家族に寄り添える医療従事者や介護従事者に近づくことができたと思います。貴重な体験をありがとうございました。

■ 学校法人さくら学園 理事長補佐 岩瀬 ゑり子氏からのコメント



この度の体験は、「死」をみつめることで「よりよく生きる」意識と同時に、自己発見にもつながる貴重な機会となりました。生徒の中には、死を「現実逃避の手段」「実感がないもの」と感じ、気軽に『死にたい』と口にする子もいましたが、『死は本当にあり、自分にも訪れるもの』と考え方に変化が出たようです。また、死を「恐怖」と感じていた生徒は、死の先にも温かな気持ちでその体を大切にしてくれる人がいることを知り、安心したそうです。「介護も死も一人ではできない。人とつながっているものだ」とイメージが変わり、「生きることのすばらしさ」や「死後のつながり」に気づく機会となりました。

■ 弊社取締役 CSO 兼 家族葬のファミリー取締役副社長・愛知支社長 岡崎 仁美より



弊社が愛知県安城市に初めて直営ホールを展開したのは2022年12月。準備期間も含め、数々の地元の皆様にお力添えいただき、早期の複数店舗展開に至っています。そうした活動の中で、学校法人さくら学園様とのご縁をいただき、「未来を担う若者たちへ共に何かできないか」と知恵を持ち寄り共に悩んで、この課外授業が生まれました。これからも安城市の一員として、地域の皆様に導かれながら、安城市の今と未来に貢献してまいります。

■ 法人概要

学校法人さくら学園

- 【 創 立 】 1947 年 4 月
- 【 理 事 長 】 岩瀬 せつ子
- 【 所 在 地 】 愛知県安城市相生町 5-9
- 【 事 業 内 容 】 幼稚園、専門学校、認知症高齢者施設などの運営
- 【 U R L 】 <https://sakura-g.ac.jp/>



安城生活福祉高等専修学校

1947 年に「古井さくら和裁学院」として、安城市古井塚に開院。1999 年に「安城生活福祉高等専修学校」と校名を変更しました。「誠心（まごころ）」を校訓とし、心豊かな人間性を育み、 勤労と感謝の心を大切にされた情操教育を展開しています。

- 【 U R L 】 <https://anjyo-sf.sakura-g.ac.jp/>

株式会社きずなホールディングス



- 【 設 立 】 2017 年 6 月
- 【 代 表 】 代表取締役社長 兼 グループ CEO 中道 康彰
- 【 所 在 地 】 東京都港区浜松町二丁目 2 番 12 号 JEI 浜松町ビル 2 階
- 【グループ会社】 (株)家族葬のファミリー、(株)花駒、(株)備前屋
- 【従業員数】 749 名（グループ連結、2023 年 5 月 31 日現在、臨時雇用者含む）
- 【証券コード】 東京証券取引所グロース市場 7086
- 【事業内容】 グループ全体の経営戦略に関する立案、推進ならびに管理
- 【 U R L 】 <https://www.kizuna-hd.co.jp/>

株式会社家族葬のファミリー



- 【 設 立 】 2000 年 7 月
- 【 代 表 】 代表取締役 中道 康彰
- 【 所 在 地 】 東京都港区浜松町二丁目 2 番 12 号 JEI 浜松町ビル 2 階
- 【事業内容】 葬儀葬祭に関する一切の業務
フランチャイズシステムによる葬儀葬祭事業の展開
「お葬式を家族のものに。」のコンセプトのもと、1日1組限定の「家族葬のファミリー」及び
邸宅型家族葬の「弔家の灯」を提供
- 【 U R L 】 <https://www.famille-kazokusou.com/>

この課外授業は、2024 年 3 月 6 日（水）、3 月 22 日（金）にも同内容にて実施予定です。

【ニュースリリース内容お問い合わせ先】

株式会社きずなホールディングス 広報部 担当：金井、佐藤
E-mail : pr@kizuna-hd.co.jp Mobile : 070-7601-5550 (受付時間 平日 9 : 00 ~ 17 : 00)